

川島町社会教育委員会意見書

社会の変化に対応する 新たな川島町社会教育の あり方について

～若者の意見を取り入れるために～

令和8年(2026年)3月

川島町社会教育委員会

<目次>

はじめに	P. 1
I 今の川島町の社会教育	P. 3
II 中学3年生意識調査の結果と考察	P. 5
III 調査・研究	P. 6
(1) 活動を行っている若者	
(2) 不登校・ひきこもり・ニートのような状態の若者	
(3) 障害のある若者	
おわりに	P. 16
資料	P. 17
1 アンケート調査票、結果	
2 川島町社会教育委員会審議経過	
3 川島町社会教育委員名簿	

はじめに

川島町社会教育委員会議では任期の2年ごとに、川島町社会教育の現在の課題について話し合い、研究テーマを決めて調査・研究を行い、教育委員会に意見を述べている。令和4・5年度には、川島町が令和4年(2022年)10月に町制50周年を迎えたこと、また、人口減少、少子高齢化等の課題もあることから、「川島町社会教育～これまでの50年、これからの50年～」をテーマに3グループ(次世代の育成・社会教育のこれから・社会教育施設の検討)に分かれて協議を進め意見書をまとめた。そのうち、「社会教育のこれから」では「川島町社会教育委員会は、これからも『この町に住む人々が、より自分らしく暮らせる地域をつくる』役割を担っていきたい」という言葉で締めくくっている。人口減少、少子高齢化は未だ続き、0歳から40歳代がとても少ない川島町では、社会教育を基盤とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」がとても重要である。このような現状から6つの公民館を統合して新たな地域コミュニティづくりの拠点として2つの地域活動センターが令和7年(2025年)4月1日から運用開始された。それぞれの分野で活躍している今期の社会教育委員で川島町社会教育の今の課題について話し合い、これからの発展を考えたときのキーワードが『若者』という言葉である。若者の参加、若者の活用が、これからの川島町の「人づくり・つながりづくり・地域づくり」にとっても重要であるとの意見の一致で「社会の変化に対応する新たな川島町社会教育のあり方について～若者の意見を取り入れるために～」という研究主題のもと研究を進めることとした。

若者と言っても、一人一人様々な状況がある。そこで、大きく3つのグループ(活動を行っている若者、不登校・ひきこもり・ニートのような状態の若者、障害のある若者)に分かれて研究を進めた。一人でも多くの若者が地域のコミュニティに参加し、様々な活動を通し自己肯定感を高め、未来に希望の持てる川島町

の一員となれることを願う。

では、これからの社会教育・生涯学習には何が求められているのか。少子化や高齢化の進展、地域のつながりが弱くなるなど、様々な課題が表面化している現在、私たちには地域で活躍する若者、つまり「未来をともすかがり火」が必要である。本意見書が、町民の皆様の心を豊かにし、より良い地域社会づくりの一助になれば幸いである。

I 今の川島町の社会教育

令和7年(2025年)は第2次世界大戦が終結してから80年となる年であった。この間、高度経済成長期、バブル経済、そして「失われた30年」と日本経済の変動は、この川島町の地域社会に大きな変動をもたらし、同時に社会教育行政も変化し続けてきた。本章では、川島町社会教育の歴史を振り返りながら概観してみたいと思う。

戦後の社会教育の始まりは、文部省の公民館設置の奨励と言える。川島村が合併するのは昭和29年(1954年)だが、いわゆる旧村時代から役場などの施設に間借りして既に公民館が設置されていた。それぞれの公民館は、合併後は地区公民館として、盆踊り、地区体育祭、敬老祭などの地域行事・イベントを中心に多様な取組が行われ、今日まで住民相互の「つながりづくり」に大きく貢献してきた。川島町の公民館の特徴は、行政職員ではなく地域住民が公民館長や主事の委嘱を受け、いわゆる「自治公民館」的な地域に根差した活動を行ってきたことである。公民館制度は、残念ながら令和6年度末に廃止されたが、新しく設置されたまちづくり協議会が公民館の創り上げた「人と人とのつながり」を活用しながら新たな取組を推進することを期待している。

社会教育の充実には、学ぶ場・活動する場である施設の拡充も大切な視点である。施設整備に関しては、初めに昭和45年(1970年)～昭和54年(1979年)の間に地区公民館の単独館が整備された。その後、昭和55年(1980年)にはコミュニティセンター^{※1}、昭和61年(1986年)には文化施設である広域福祉会館^{※2}、平成10年(1998年)にはふれあいセンターフラットピア川島^{※3}と、おおよそ10年間隔で学びの拠点が整備された。体育施設としては、昭和50年(1975年)には総合グラウンド、昭和55年(1980年)に町民体育館、昭和61(1986年)に武道館、平成8年(1996年)に平成の森公園多目的広場が整備され、スポーツをす

るための環境づくりが進んだ。これらの施設の多くは、日本経済が元気な「右肩上がり」の頃に建設され、地域公民館の一部は老朽化により取り壊しとなるなど、維持管理の面で課題も少なくない。残された施設は、今後も住民の学びやスポーツの場としての有効活用に取り組んでほしい。

最後に忘れてはならないのは、生涯学習への取り組みである。生涯学習は、社会教育・家庭教育・学校教育を包含する概念として昭和40年(1965年)頃から少しずつ脚光を浴び始めた。その意味は、文字通り「生涯」にわたり「学習」することになる。川島町では、平成元年(1989年)に文部省の指定を受け、生涯学習推進会議を設置して「いつでも、どこでも、だれでも」学べる体制づくりに着手した。平成4年(1992年)には、県内の町村ではじめて「生涯学習推進のまち宣言」を当時の東京国際大学の遠藤克弥先生の指導のもと行った。この頃は、陶芸教室、絵画教室、英会話教室、パソコン教室など多様な学習講座が開催された。従来、「学ぶ」ことは、やや堅苦しいもの、または、「勉強」のように「しなければならない」というイメージがあったかもしれない。しかしながら、趣味や教養の学びに代表されるように、学ぶことは楽しいことと気付かせてくれたのが、生涯学習の大きな功績だったと考えている。

※1 現在の名称は、地域活動センターイースト。

※2 同、町民会館。

※3 同、地域活動センターウェスト。

Ⅱ 中学3年生意識調査の結果と考察

若者が地域部会（旧公民館）におけるイベント等について、どのように考えているか把握するため、下記のとおり調査を行った。

調査日：令和7年7月14日（月）～16日（水）

対象者：町内中学校に通う3年生（135名）

回答者数：121名（回答率89.6%）

回答方法：タブレット端末から回答

旧公民館を利用したことがある生徒は約7割となっており、その多くが納涼盆踊り大会への参加を挙げる一方、様々なイベントに参加したことがあるとの回答も多く見られた。しかし、中学生になると地域部会（旧公民館）イベントへの参加率は4割未満となり、参加した内容は納涼盆踊りがほぼ100%を占める結果となった。参加した理由は『面白そう（楽しそう）だったから』が最も多かったが、一方で、イベントに参加しなかった理由に『面白い内容がない』という回答もあった。他の質問の回答からも、楽しいと感じる事業であれば、参加する可能性があることが読み取れた。また、これまで周知方法はチラシが主な手法であったため、参加対象者が実質地域住民に限られていたが、今後はSNSを活用することにより、広く若者を呼び込むことができるのではないかと考えられる。さらに、イベントの手伝いは可能か、という質問について、『ぜひ手伝いたい』が35%、『手伝いたいけど難しい』が42%と、約8割の生徒に時間があれば手伝ってみたいという意向があった。現在、一部地域では夏休み期間に行われる納涼盆踊り大会などのボランティアを募集しており、これまでも毎年応募がある。ニーズが合致すれば若者が地域で活躍できる機会を生み出すことができるのではないかと期待できる結果であった。

詳細な調査結果は、資料として添付する。

Ⅲ 調査・研究

(1) 活動を行っている若者

1. テーマの内容

「活動を行っている若者」グループでは、現在活動を行っている若者を対象として、調査研究を行った。

2. 実態

地域学校協働活動のスタッフや、総合型地域スポーツクラブには若者がいるが、川島町地域活動センターイースト・ウェスト、旧出丸小学校、旧小見野小学校を活動拠点としている方は高齢者が多い。また、それらの場所で行っている各種事業については、ひろば講座・イベントは小学生が、町主催講座は高齢者が多い状況である。

町主催講座は職員の勤務時間である平日の日中に開催することが多い。

3. 課題

若者は、平日の日中は学校や仕事があり、講座を開催しても参加することができない。

多くの講座の周知方法が広報誌のみとなっているが、二世帯住宅や敷地内に複数家を建てている家庭もあり、広報誌が届いても祖父母世代が見るだけで、親世代や子世代（若者）が目にする機会がない。

講座の内容が固定化しており、若者が興味を持てるような内容を扱っていない。

4. 提言

生涯学習の基本理念である「楽しく学び、仲間をつくり、豊かな地域を育てる」という目標に向かう方策として、社会教育活動を行っている若者が、楽しさを共有しながら学び、学習・趣味等の仲間をつくり、地域社会に主体的にさらに関わる必要があると考える。

町主催講座を平日の日中のみだけでなく、平日夜間や土日など、多くの方が参加できるような時間帯で開催するなど工夫が必要である。

さらに、内容も一新し、若者が興味を持てるようにし、周知方法もSNSやまちづくり協議会広報部と協力した広報活動を行うことも考えられる。

また、活動を行っている若者の発表機会を多く設けることで事業を広めるとともに、活動を継続できる環境を作っていく必要がある。

(2) 不登校・ひきこもり・ニートのような状態の若者

1. テーマの内容

不登校は、主に学校・教育委員会の対応が中心である。各学校では、生徒指導委員会や教育相談部会等が協力し、かつ教育委員会の支援により解決に向けた取組がなされている。また、ひきこもりの若者については、正確な把握が困難であり対応策は未だ確立されていない。しかし、不登校児童・生徒もひきこもりの若者も大切な社会の一員であり、社会全体で対応する必要がある。社会教育(生涯学習)の果たす役割は大きい。

2. 実態

川島町の小・中学校において、令和6年度調査による30日以上の不登校児童・生徒は、36名存在している。30日に至らなくても様々な理由により学校に適應できない児童・生徒も多数存在すると聞く。町では、中学校区に係る不登校対策チームを作り、様々な分野の関係者が関わって解消に向けて努力している。また、校内の相談室、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが個別に関わったり、学校外にまなびのサポートセンターを設置し、不登校傾向児童・生徒に対応している。最近では、不登校傾向の児童・生徒のためのメタバース環境^{※4}の整備やその保護者に対して給食試食会を通じた交流会を開催している。

一方、高校生以上の若者のひきこもりの人数については、調査するすべがないので正確な人数は把握できていない。よって、具体的な対策がなされないため様々な問題を抱えている家庭があることが予想される。

※4 仮想空間の世界で交流する環境

3. 課題

- 不登校対策チームの継続的・発展的な取組
- ひきこもりの若者・家族に対する町の支援(行政施策の推進)

4. 提言

◎心理的なハードルを下げる場、安心できる場、好き得意を生かせる場の設定
・義務教育の不登校児童・生徒については、今以上に不登校対策チームの取組を
発展させて、誰かとつながる、好きなことを通じて外とかかわる場を提供する
必要がある。

→オンラインゲーム、オンライン相談など

・ひきこもりの若者本人にとって社会活動に関わることが一番のハードルだとす
れば、本人だけでなくその家族に対して必要な支援を提供する必要がある。

→保護者向け家庭教育講座・非認知能力養成講座の実施

・ひきこもりの若者に対しては、学校に代わって地域社会や行政が社会活動にか
かわる場の設定をする必要がある。特に好きなものや得意なことに関わる場を
設けてあげたい。

→健康福祉課、民生委員、自治会、まちづくり協議会地域部会の積極的関わり

《実際の地域での取組例》

一昨年、町内にある神社のお祭りが地区で行われたが、コロナ禍の影響もあり参
加者は20人不足であった。実行委員である地元有志が「お祭りの際に、かき氷
や焼きそば、焼き鳥等のお店を出してお祭りを盛り上げよう」という提案をした。
そのポスターの制作をどうするか協議したところ、「近所に小・中学校時代、学校

に行けなくなった人がいる。その方は絵が得意である」という情報を得た。

そこで、代表者がその方に「ポスターを描いてくれないか」とお願いしたところ、「絵なら喜んで描きます」と快諾いただき、そのポスターをカラーコピーして掲示した。そのおかげもあり、参加者が少なかった神社のお祭りに、その年は子どもも含め160人以上が集まった。ポスターを描いた方もお祭りに訪れ、かき氷を食べたり、ゲームをしたりするなど笑顔で楽しんでいた。他人とほとんど関わることができなかった人が、明るく「来年もポスターを描きます」と話してくれた。お祭りの実行委員も感謝し、大成功のお祭りとなった。

最終目標は、本人及びその家族自身の意思で今後の生き方や社会とのかかわり方などを決める「自律」であるが、行政と地域社会が一体となって、その支援にあたりたいものである。

〔参考〕

- 「一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック」埼玉県教育委員会
- 「ひきこもり支援施策の全体像」 厚生労働省
- 「ひきこもり支援推進事業」 同上
- 「ひきこもりに関する地域社会に向けた広報事業」 同上
- 「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～概要」 同上

(3) 障害のある若者

1. テーマの内容

若者の中には、病気等により社会との関係性の中で困難を感じている方も多くいる。川島町でも子どもから大人までとみると数百人おり、日々の生活で困難を感じている若者もこれからの川島町をつくっていく大事な方々である。

障害の有無に関わらず、一人一人が、生涯にわたり学びを通じてその能力を維持向上し続けるとともに、その成果を個人の生活や地域での活動等に活かしつつ共に生きることのできる「共生社会」の実現を目指して、「障害者の生涯学習の推進方策について」のまとめが、平成31年(2019年)に文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」から出された。

川島町においても障害のある方一人一人が自分のよさを活かして地域社会の中で活躍していくためには社会教育の分野で何が出来るか、また、どのように社会教育活動に参加して共に学び、生きがいをもって生活していけるかについての取組を強化する必要があると考える。

2. 実態

【現状】

町内特別支援学級在籍 児童生徒数	71名
特別支援学校在籍 児童生徒数	9名
在宅重度心身障害者	184名(すべて成人)
町で把握している障害児	55名

※すべて令和7年度現在

【町の取組】

- ・健康福祉課「川島町ソーシャルクラブ」 *参加者が少ない

目 的：精神疾患を抱える方の社会復帰

場 所：地域活動センターイースト

活動回数：月1回

- ・川島町立図書館 広報誌音訳CDの作成及び貸し出し

【その他（社会福祉法人ウィング）の取組】

のびっこ	仕事を通じて利用される方の自己実現のためにチャレンジすることを支援している。
マハロ班	製菓事業班。お菓子製品作りを行っている。JAや町内関係機関で販売。個別の注文、ギフト包装もしている。
エラン班	紙すき事業班。牛乳パックの回収・再利用で名刺、和紙製品（はがき、コースター、ランチョンマットなど）を作っている。町内・近隣市町村からの注文がある。
ジャカッセ班	資源回収事業部。中山・八幡・伊草といった地域を回り、アルミ缶や新聞を回収し、リサイクル活動をしている。平成の森公園、かわじま公園、ホンダエアポートの清掃作業も行っている。
パレット班	デザイン印刷事業班。印刷技術、パソコン操作、縫製作業を行っている。メンバーが表現した作品の商品化や思い出の写真・作品をTシャツ、バッグなどに加工している。

Smile Cafe 1/2	勤労の機会や仕事に必要な技術・知識を得たい人、一般就労したいが自信がないという方などに日々の作業を通じて支援している。コミュニティの場として芸術・文化の発表の場や、地域野菜を使用しメニュー開発をしている。
ライフサポートそら	障害福祉サービス、介護保険サービス、生活サポート事業を行っている。
るんるんクラブ	障害のある人たちを中心としたサークル活動。科学教室、絵手紙、卓球、音楽、よさこいなどを行っている。
きらり	相談支援を行っている。障害のある方や家族がこの地域で生涯にわたりその方らしく安心して生活出来るようにすることを目的としている。
にじ	グループホーム。
にこにこ	個々の個性や発達段階に応じた個別支援をしており、3歳から18歳の受給者証を持つ方を対象としている。生活スキル・マナーを身につける。元気な心と体を作る。豊かなコミュニケーション力を育てる。
ぬくぬく	家庭に代わるセカンドハウス。親離れ・子離れ体験や本人・家族の息抜き、緊急時の対応を目的としている。

【その他（株式会社リクルートスタッフィングクラブ）の取組】

- ・障がい者雇用を目的として設立された、株式会社リクルートスタッフィングの特例子会社。知的障がい者が活躍する企業である。川島営業所の他に8営業所がある。紙を製造し、卓上カレンダーなど親会社の販促物を製造。一部事業所ではコーヒーも製造している。

3. 課題

調査をしてみて町内の施設・事業を調べ切れていないと思うが、障害のある若者の学びの場、活躍の場が少ないと感じた。社会の一員として得意なことを活かしたり、学びを深めたりする場がもっと必要である。例えば、絵などの平面作品が得意な人がいれば店舗、施設に飾りその場の雰囲気作りに役立てたり、粘土などの陶芸が得意な人には食器を作り販売したり、体を動かすことが好きな人は体を動かす仕事のように、一人一人の障害のある方の特性を活かせる場をつくっていくことが必要である。

それぞれの施設、プログラム等を障害の程度によって選べることができたり、希望するすべての人が利用できるようにしたりして障害のある若者の社会参加を促すことが必要である。

4. 提言

行政としては、社会教育・学校教育（特別支援教育）・障害福祉関係者等のネットワークをつくり情報や課題を共有して行くことが重要である。そして、それと共に以下の4点が重要である。

- ・施設（働ける場所や生活支援のための場所）を増やす。
- ・障害のある若者が興味を持ったり、意欲的に参加できたりする講座・イベントなど多様なプログラム・活動を工夫する。
- ・ボランティアスタッフ、介護スタッフ等の確保、育成など人的支援をする。
- ・助成金の補助が出来るようにするための予算確保をする。

特に地域活動センターでは、環境整備のもと障害のあるなしに関わらず、子どもから若者等異世代の交流する場（フリースペース、イベントなど）を設け、地域の

中で障害に対する理解の促進を図り、障害のある若者も地域活性化の一翼を担えるようにしていくことが必要である。

〔参考〕

「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」（R 7・文部科学省）

学校卒業後の障害者に対する生涯学習の機会の確保が求められている。合理的配慮や情報保障への対応が急務。「障害の有無に関わらず共に学び、生きる共生社会」の実現を目指す。予算額は1億2,400万円。

「第4期教育振興基本計画」（R 5・文部科学省）

障害者の生涯学習の充実に向けて、社会教育施設や民間団体における取組、大学等の公開講座といった学びの場・機会の提供等の取組の推進を図る。

「障害者基本計画（第5次）」（R 5・内閣府）

地域における学校卒業後の学習機会充実のため、教育・療育機関は、関係機関と連携して生涯学習を支援する機関としての役割を果たす。

おわりに

今回の意見書ではこれからの社会教育のあり方について、若者に視点を当てて調査・研究を行ってきた。その中で実態を調べる上で、中学卒業後の年代の実情を把握することがとても難しいということに直面した。人数は把握できても、16歳から40歳代ぐらいまでの町民の方々がどのような活動をしているのか、どのような状態にあるのか、そして、社会教育活動への参画の割合はどのくらいかが把握しにくかった。住民基本台帳からアンケートを配布し集約すればもう少し現状把握ができたと思われる。当初、二十歳の成人式に参加された方々と話す機会を持つことを模索したが、その年代の方々はそれぞれが忙しく、なかなか都合が合わず実現できなかった。そこで町内の中学3年生に意識調査を行った。これは、今後の社会教育を考えていく上でとても参考になった。中学生は地域の活動に全く無関心ではなく、イベントへの参画などに前向きな意見を持っている生徒が多くいることがわかったことである。イベントを行うことによって地域の人々のつながりづくり、地域づくりができていく。また、行政には、学校を終えた若者が生涯学習として学びたいこと、高齢者の人々には趣味を広げるようなことなど多様な年代、多様な学びの講座を用意していただくことによって、講座を一緒に学んだ人々がサークルを作るなど講座による人づくりだけでなく、つながりづくりも期待できる。今回の研究はこれからの社会教育を考えていく上での一側面からの入口の扉を少し開けただけと考える。人口減少・少子高齢化が加速度的に進行している本町の現状を、社会教育の「人づくり・つながりづくり・地域づくり」により地域・町の活性化が図られ少しでも変えていかれればと願っている。

令和8年3月12日

川島町社会教育委員会 委員長 磯 真砂子

アンケート調査票

川島町社会教育委員会議（地域で行われる活動や学習の調査・研究・提案を行っているグループ）では、地域のイベントや活動について、今後どうすれば、より活発になるかを調査しています。

※このアンケートは社会教育委員会議に代わり、川島町教育委員会が実施するものです。

※無記名ですので、誰が書いたか分かるような形で結果が公開されることはありません。

※思ったことをそのまま書いてください。なお、回答は調査研究のために使用します。

★アンケートを回答する際に知っておいてほしいこと

・令和7年4月から、『公民館』は『地域活動センター』という名称に変わりました。

・令和7年4月から、公民館が行っていたイベントは、『地域部会』が引き継いでいます。

で囲われた設問は、必須回答です。

Q1 今、住んでいる地区を1つ選んでください。

- ①中山地区 ②伊草地区 ③三保谷地区
④出丸地区 ⑤八ツ保地区 ⑥小見野地区

Q2 これまでに、旧公民館を利用したことは、ありますか。1つ選んでください。

※コミュニティセンター、フラットピア川島を除く。

- ①ある ②ない

Q3 小学生までの間に、公民館（地域部会）が行っているイベントに参加したことは、ありましたか。参加したことがあるイベントをすべて選んでください。

（複数選択）

【Q1が①の方】

- ・盆踊り大会 ・地区体育祭 ・歩け歩け大会 ・興風広場 ・茶道
体験教室
・木工教室 ・ハイキング ・スキー教室 ・マラソン大会
・中山っ子くらぶ ・その他の事業・イベント ・参加したことはない

【Q 1 が②の方】

- ・盆踊り大会
- ・ハイキング
- ・伊草っ子くらぶ
- ・スポーツフェスティバル
- ・小学生課外学習
- ・その他の事業・イベント
- ・歩け走ろう大会
- ・敬老文化祭
- ・参加したことはない

【Q 1 が③の方】

- ・盆踊り大会
- ・スキー教室
- ・三保谷っ子くらぶ (または、つばさ南っ子くらぶ)
- ・その他の事業・イベント
- ・合同運動会
- ・ふる里敬老芸能祭
- ・歩け走ろう大会
- ・ハイキング
- ・参加したことはない

【Q 1 が④の方】

- ・盆踊り大会
- ・スキー教室
- ・出丸たんけんクラブ (または、つばさ南っ子くらぶ)
- ・その他の事業・イベント
- ・合同運動会
- ・敬老会
- ・歩け走ろう大会
- ・ハイキング
- ・参加したことはない

【Q 1 が⑤の方】

- ・盆踊り大会
- ・ハイキング
- ・八ツ保っ子くらぶ (または、つばさ北っ子くらぶ)
- ・その他の事業・イベント
- ・チャレンジ・ザ・スポーツ祭り
- ・スキー教室
- ・歩け走ろう大会
- ・敬老芸能祭
- ・参加したことはない

【Q 1 が⑥の方】

- ・盆踊り大会
- ・スキー教室
- ・小見野っ子くらぶ (または、つばさ北っ子くらぶ)
- ・その他の事業・イベント
- ・チャレンジ・ザ・スポーツ祭り
- ・敬老芸能大会・文化祭
- ・歩け走ろう大会
- ・参加したことはない

Q 4 中学生になってから、地域部会 (旧公民館) が行っているイベントに参加したことは、ありますか。1つ選んでください。

- ①ある ②ない

【Q 4 が①の方】

Q 4 - 2 どんなイベントに参加しましたか。参加したイベントをすべて選んでください。(複数選択)

- ・盆踊り大会
- ・地区体育祭／運動会／チャレンジ・ザ・スポーツ祭り
- ・歩け走ろう大会／歩け歩け大会
- ・興風広場
- ・ハイキング
- ・スキー教室
- ・マラソン大会
- ・敬老文化祭／敬老芸能祭／敬老会／敬老芸能大会・文化展
- ・その他 (自由記述)

【Q 4 が①の方】

Q 4 - 3 そのイベントに参加した理由を、すべて選んでください。(複数選択)

- ①面白そう (楽しそう) だったから
- ②友達や家族が参加するから
- ③予定が空いていたから
- ④参加するように頼まれたから
- ⑤その他 (自由記述)

【Q 4 が②の方】

Q 4 - 4 参加しなかった理由を、すべて選んでください。(複数選択)

- ①参加したかったが、部活や習い事が忙しい
- ②参加したかったが、勉強や塾が忙しい
- ③休みたい
- ④面白い内容がない
- ⑤イベントが行われていることを知らない
- ⑥参加する気がない
- ⑦その他 (自由記述)

【Q 4 - 4 が⑥の方】

Q 4 - 4 - 2 『参加する気がない』と回答した理由を、教えてください。(自由記述)

【Q 4 が②の方】

Q 4 - 5 こうなったら参加できるのに、と思うことはなんですか。(複数選択)

- ①部活や習い事の時間が減る
- ②勉強や塾の時間が減る
- ③面白い内容が増える
- ④チラシやSNSでお知らせしてくれる
- ⑤その他 (自由記述)

Q 5 町や地域部会 (公民館) で、こんなイベントがあつたら参加したい! という内容を教えてください。

(自由記述)

【Q 5 で自由記述がある方】

Q 5-2 なぜ、そのイベントがあったら参加したいと思うのか、教えてください。

(自由記述)

Q 6 町や地域部会(旧公民館)でイベントを行う場合、お手伝いすることはできますか。1つ選んでください。

- ①手伝ってみたい ②手伝いたいが、難しい ③手伝うことはできない

【Q 6 が①の方】

Q 6-2 どんなことを手伝ってみたいですか。手伝ってみたい内容をすべて選んでください。(複数選択)

- ①イベントの企画 ②イベントの事前準備 ③イベント当日の運営
④その他(自由記述)

【Q 6 が②または③の方】

Q 6-3 手伝いたいが難しい、または、手伝うことができない理由はなんですか。すべて選んでください。(複数選択)

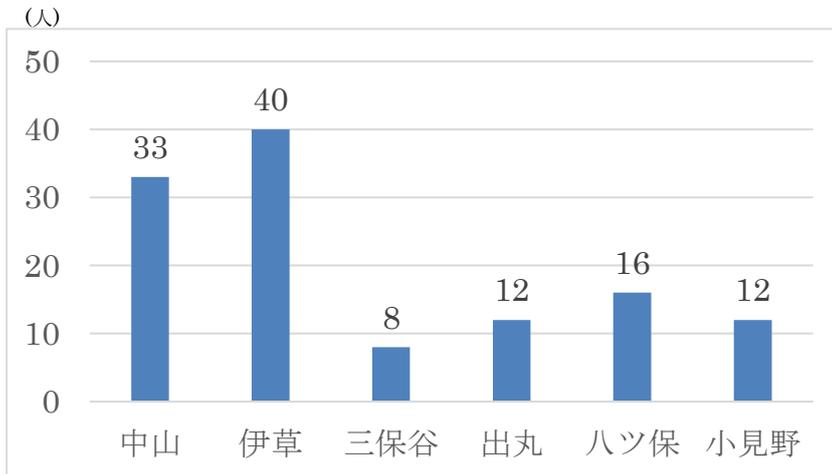
- ①部活や習い事が忙しい ②勉強や塾が忙しい ③面倒だと感じる
④人前に出ることが恥ずかしい、または嫌だ
⑤メリットがなさそうだから ⑥その他(自由記述)

ご協力ありがとうございました。

アンケート結果

Q 1 今、住んでいる地区を1つ選んでください。

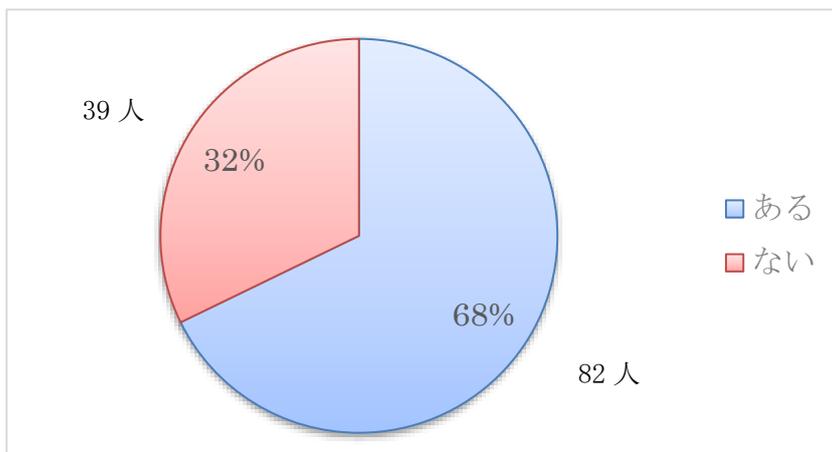
- ①中山地区 ②伊草地区 ③三保谷地区
④出丸地区 ⑤八ツ保地区 ⑥小見野地区



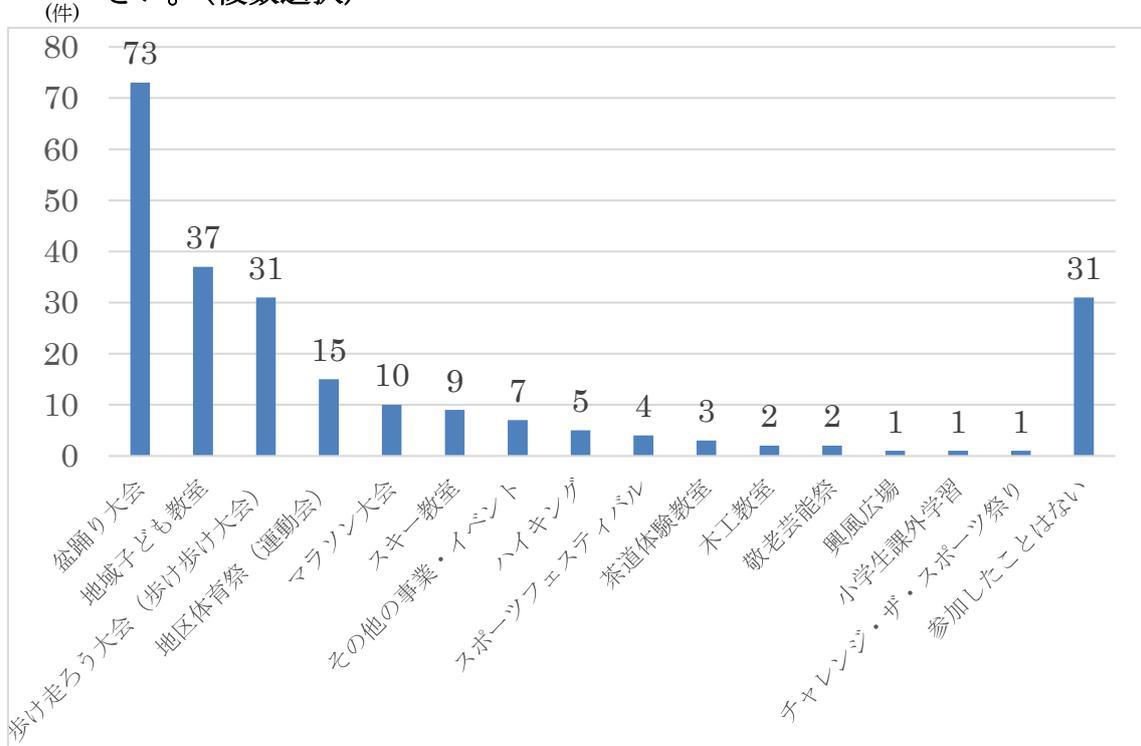
Q 2 これまでに、旧公民館を利用したことは、ありますか。1つ選んでください。

※コミュニティセンター、フラットピア川島を除く。

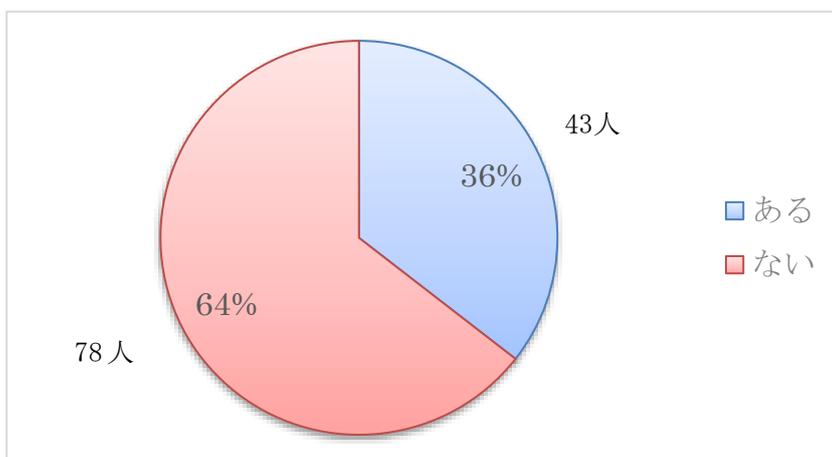
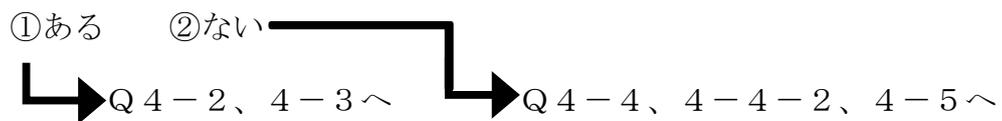
- ①ある ②ない



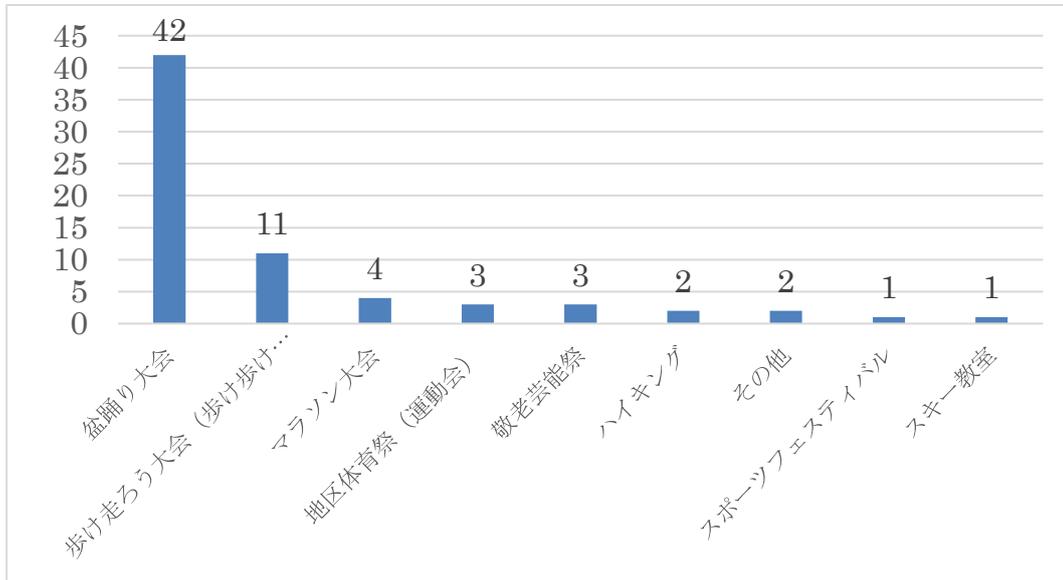
Q 3 小学生までの間に、公民館（地域部会）が行っているイベントに参加したことは、ありましたか。参加したことがあるイベントをすべて選んでください。（複数選択）



Q 4 中学生になってから、地域部会（旧公民館）が行っているイベントに参加したことは、ありますか。1つ選んでください。



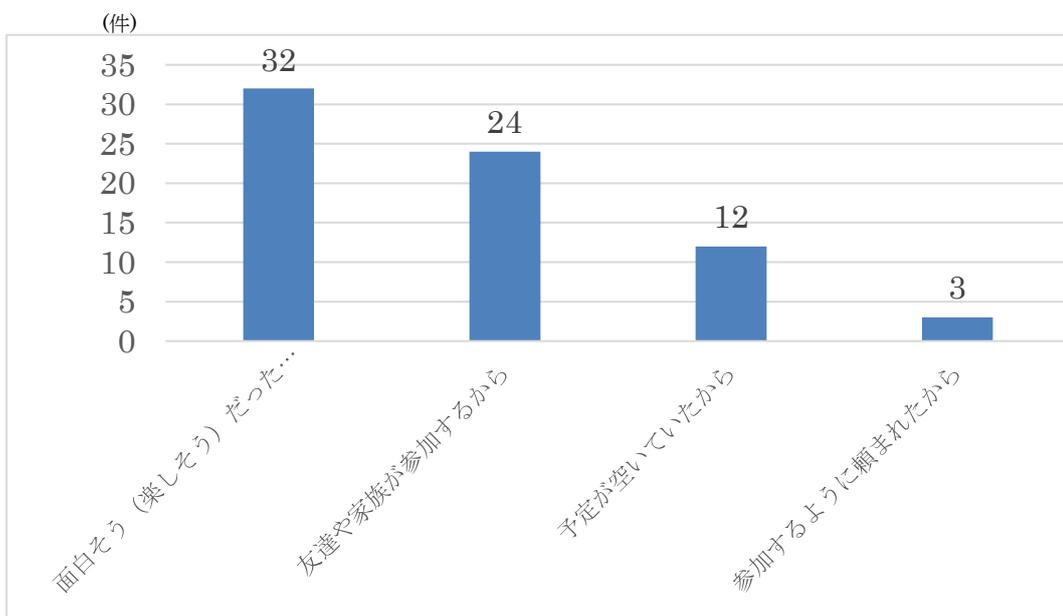
Q4-2 どんなイベントに参加しましたか。参加したイベントをすべて選んでください。(複数選択)



※その他……三保谷まつり、こかばの会 (太鼓)

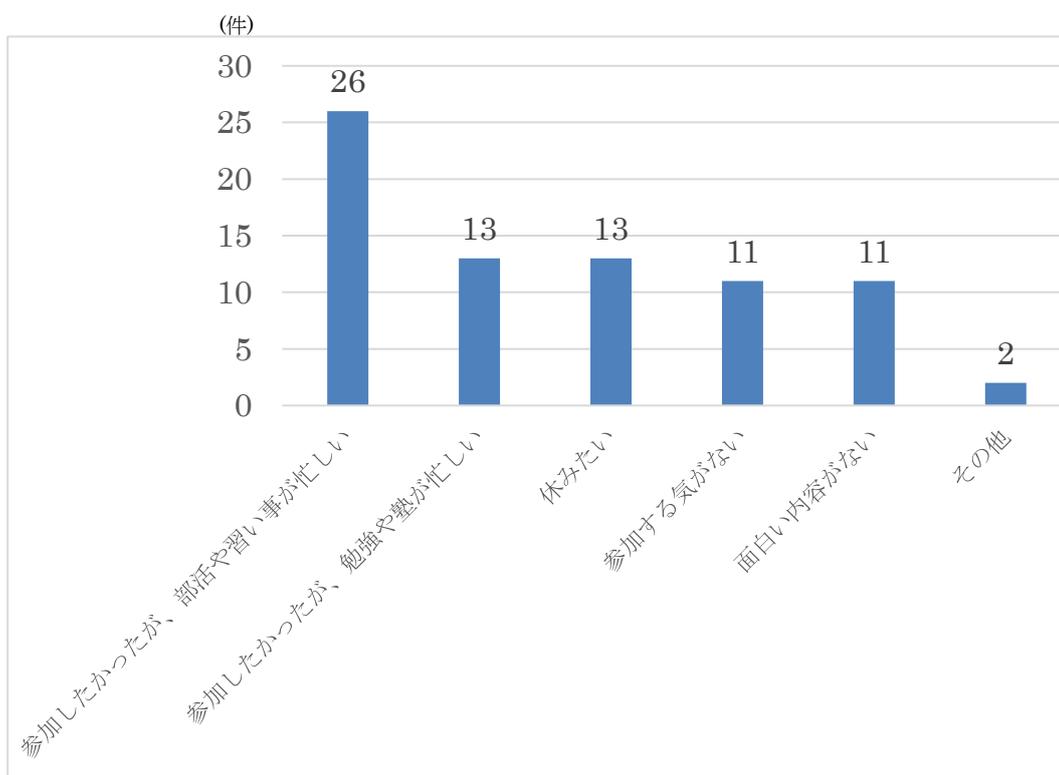
Q4-3 そのイベントに参加した理由を、すべて選んでください。(複数選択)

- ①面白そう (楽しそう) だったから
- ②友達や家族が参加するから
- ③予定が空いていたから
- ④参加するように頼まれたから
- ⑤その他 (自由記述)



Q4-4 参加しなかった理由を、すべて選んでください。(複数選択)

- ①参加したかったが、部活や習い事が忙しい
- ②参加したかったが、勉強や塾が忙しい ③休みたい
- ④面白い内容がない
- ⑤イベントが行われていることを知らない ⑥参加する気がない
- ⑦その他 (自由記述)



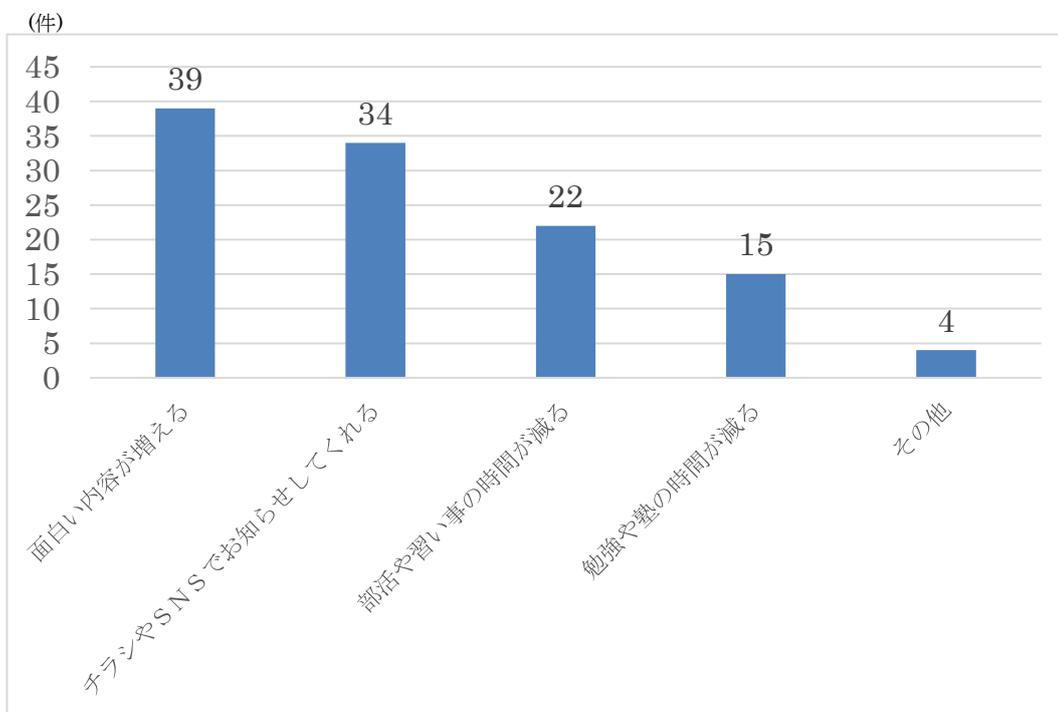
※その他……習い事

Q 4-4-2 『参加する気がない』と回答した理由を、教えてください。

面白くない	やりたいことがないから
他のことをしたかったから	忙しいから
部活で疲れてずっとねてるから	活動がわからない
ただただ休みたいだけ	自分の身になると思わないから
やってみたい内容がない、興味ない 友達と遊んでたほうが楽しい	家で過ごす時間を大切にしている から
興味がなかったから	

Q 4-5 こうなったら参加できるのに、と思うことはなんですか。(複数選択)

- ①部活や習い事の時間が減る ②勉強や塾の時間が減る
③面白い内容が増える ④チラシやSNSでお知らせしてくれる
⑤その他 (自由記述)



※その他……友達や周りの人に誘われる、興味が出たら、ない

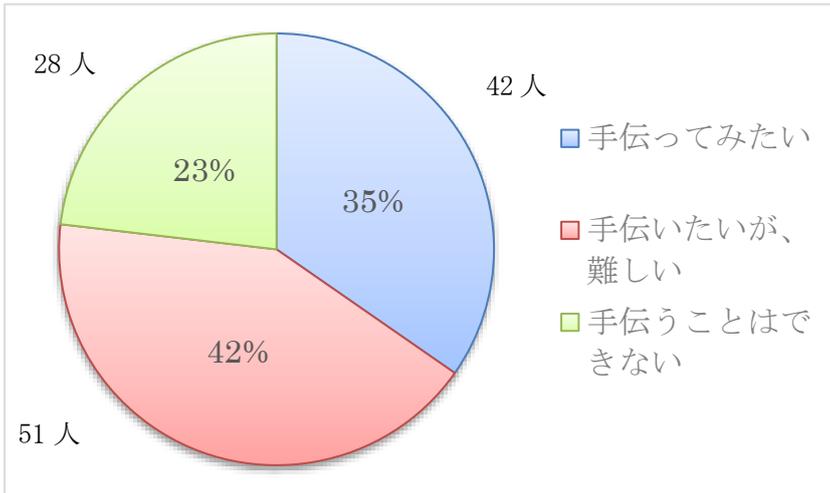
Q5 町や地域部会（公民館）で、こんなイベントがあったら参加したい！という内容を教えてください。また、なぜ、そのイベントがあったら参加したいと思うのか、教えてください。

あったら参加したいイベント	理由
規模の大きいお祭り（夏祭り、秋祭り、伝統的な祭り）の開催及び複数の屋台を設置	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな夏祭りが町内で行われていないから ・沢山の種類の屋台があると更に楽しめるから ・子どもから大人まで、どの世代でも楽しめるし、仲を深めることができるから
花火大会	楽しそうだから
カラオケ大会、ダンス大会	みんなが自分を表現できる場所があったらいいと思ったから
スイーツ作り	美味しいスイーツが食べたいから
CDを作る	音楽が好きだから
お金掴み取り	楽しそうだから
勉強会	受験生だから
スポーツ大会、マラソン大会	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす運動やスポーツが好きだから ・走るのが好きだから
卓球のプロ選手招致	卓球をしてるから
魚などの触れ合い、金魚すくい大会	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が魚が好きだから ・面白そうだから

みんなでやるイベント	おもしろそう
面白みのあるイベント	楽しそうだから
有名人が来る	<ul style="list-style-type: none"> ・有名人に会いたいから ・楽しそうだから
交流イベント（町内在住の小・中学生、中学校卒業生と中学生、地域の方）	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとれる機会があると町全体が良い雰囲気になると考えたから ・川島町は遊ぶ機会が少ないから ・楽しそうだから
みんなでゲーム、旅行	みんなで各地域の祭りを行くよりは、みんなで参加して楽しみたいから
ハンドメイドなどのマルシェ（もっと頻繁にやってほしい）	<ul style="list-style-type: none"> ・川島町だからこそできると思うから ・地域の子ども達もたくさん参加しそうだから
町の特色のあるイベントを作ってほしい。ただ、どの世代でも楽しめることを考えてほしい	楽しいから
近くにある	近いと行きやすいから
※30ページ別紙参照	内容のとおり

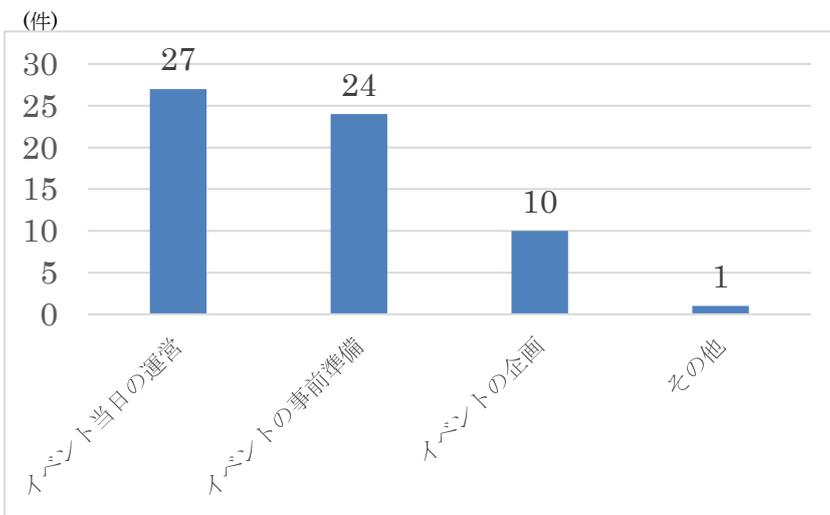
Q 6 町や地域部会（旧公民館）でイベントを行う場合、お手伝いすることはできますか。1つ選んでください。

①手伝ってみたい ②手伝いたいが、難しい ③手伝うことはできない



Q 6 - 2 どんなことを手伝ってみたいですか。手伝ってみたい内容をすべて選んでください。（複数選択）

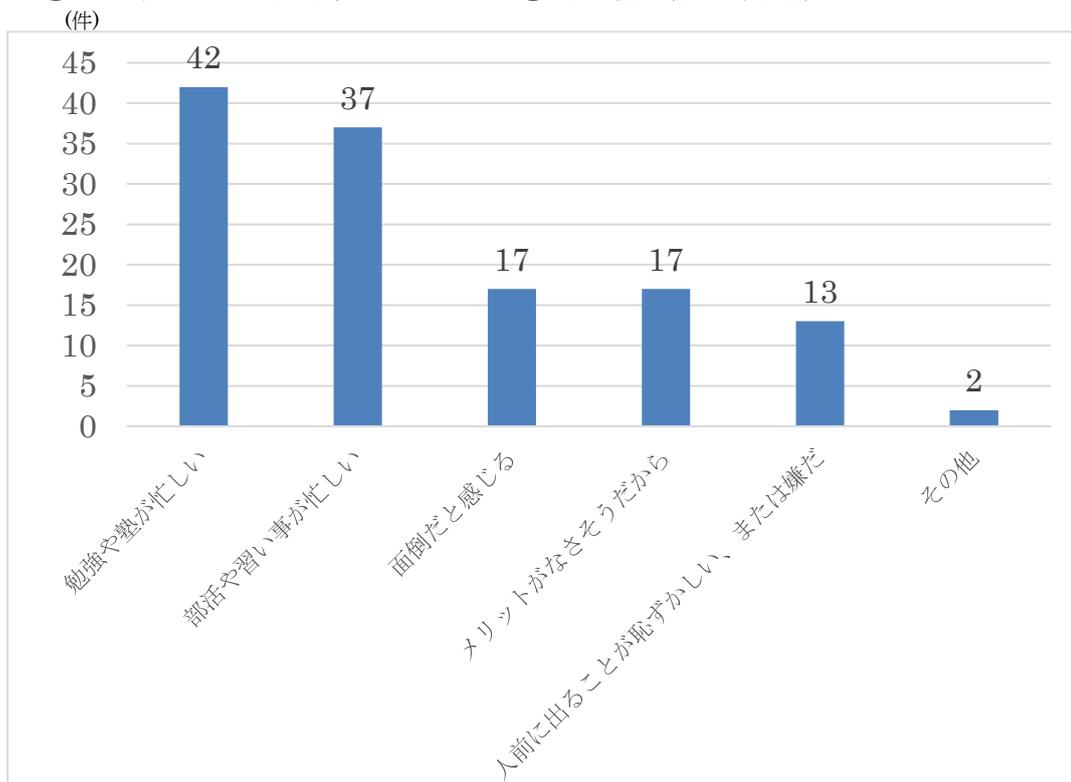
①イベントの企画 ②イベントの事前準備 ③イベント当日の運営
④その他（自由記述）



※その他……イベントのデザイン

Q6-3 手伝いたいが難しい、または、手伝うことができない理由はなんですか。すべて選んでください。(複数選択)

- ①部活や習い事が忙しい ②勉強や塾が忙しい ③面倒だと感じる
 ④人前に出ることが恥ずかしい、または嫌だ
 ⑤メリッ트가なさそうだから ⑥その他(自由記述)



※その他……怪我で移動が難しい、自分が楽しむ時間がなくなってしまうと困るから

別紙

地域のみんが楽しめるようなコミュニティ行事を行う。例えば季節の特色を活かした活動、行われているものだと盆踊り大会、行われていないものだと花見？雪合戦？等、地域の人々の興味を誘えるものがあるといい。小さい子の興味を引けるものは、遊ぶもの。学生だと、とりあえず行事？大人の場合はメリットがあるもの。忙しかったりする家庭も多いため、家庭の仕事を行うよりも利点、メリットがある行事だと参加する人が増えるかもしれない。高齢者は、同じく高齢者の人と会うことが楽しみだったりすることが多いので、高齢者に集まって、地域の活性化をしたい場合は、高齢者向けの、行事？や、高齢者が互いに集まり合う機会を増やせる行事を出したほうがいいと思います。例で言うと、朝のラジオ体操や、高齢者が好きそうな演歌を歌うカラオケ大会、高齢者を集めたい場合は、高齢者が好きそうなもの、なおかつ、たくさん高齢者の方が集まり、互いに会う機会になるような行事を増やすと良いと思います。自分自身、町や地域部会というのは、若者だけで成り立っているわけではないので、私が参加したいのは、地域の子どもから高齢者や、大人まで、沢山の人が集まれる、町民がたくさん絡むようなイベントに参加したいと思っています。私は実際去年に旧中山公民館で行われた盆踊り大会に参加しましたが、参加した人の大半が子どもや学生のように感じられ、大人や高齢者は参加することがあまり見かけられなかったと思います。盆踊り大会で、盆踊りに参加する大人や高齢者の方々はいらっしゃいましたが、その他に見られる大人は少なかったと思います。盆踊りは、幅広い世代で愛されているものであり、若い人や、ご年輩の方も楽しく参加することができます。その点では、この活動は良いと思います。また、大会の最後で、自分の数字と商品を交換できるビンゴ？のようなものもありました。その取組も、沢山の人がこの大会に来る参加理由となっている可能性があり、その取組も良かったと思います。

取組は良いのですが、それでもなかなか参加する人の幅、比率が、増えません。そこでどうするか、私が考えたのは、地域活動にするのではなく、川島町の町内全体で行う大規模なまつりに変えてみたり、今まであった行事を心機一転して、新しい行事を増やすのはどうでしょうか？私が考えるには、町内全体で行う行事にした場合は、沢山の人が集まり、その大きなイベントであったら、小さなお子様や、ご年配の方々であっても、参加したいという意思が見られると思います。ですが、町内で大きなイベントを催すということは、それに伴って、行事の開催費、行事運営費や、町全体なので、まとめるのが難しくなってしまうという欠点もあります。この欠点も踏まえて、この意見を良ければ検討してみてください。心機一転して、新しい行事を開くことは、新しい行事に、興味を持った人が参加したいという意思を持って沢山の人が参加してくれると考えます。ですが、心機一転して行事を新しく開催するのは、今まであった行事が好きで参加していた方々は、行事が変わってしまうことによって、参加する意思がなくなって、前の行事よりも参加人数が少なくなってしまうということになることもありかねません。このようなメリット、デメリットを踏まえて、この意見も検討してみてください。話が回りくどくなり、様々な提案をして長くなってしまいましたが、まとめて、私が参加したいと考えるイベントは、地域絡みで、その地域のお子様やご年配の方々まで、沢山の人が楽しめる、年代を超えて触れあえるような、楽しい行事だと参加したい！という気持ちが湧いてきます。川島町社会教育委員会議の方々の頑張りや今までの取り組みを無駄にするような発言をしてしまい、大変申し訳ありませんでした。良ければ、私が提案した行事や取り組みの仕方を参考にいただければ幸いです。今回はありがとうございました。これからの活躍を応援しています。

川島町社会教育委員会審議経過

開催回	期 日	主な審議内容等
令和6年度第1回	令和6年5月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4・5年度の活動報告について ・令和6・7年度活動テーマについて
令和6年度第2回	令和6年7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6・7年度活動テーマについて
令和6年度第3回	令和6年10月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6・7年度活動テーマについて
令和6年度第4回	令和6年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6・7年度活動テーマについて
令和7年度第1回	令和7年7月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動テーマに係る話し合い(調査・研究について)
令和7年度第2回	令和7年10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動テーマに係る話し合い(調査・研究について)
令和7年度第3回	令和7年12月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・活動テーマに係る話し合い(調査・研究について)
令和7年度第4回	令和8年2月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・意見書(案)について
令和7年度第5回	令和8年3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・意見書(案)について

※上記のほか、各個別テーマのグループにて、自主的な検討会議を実施。

川島町社会教育委員名簿

任期：令和6年度～令和7年度

社会教育委員	氏名
学校教育関係	やまざき きよみ 山崎 清美
家庭教育関係	たかむく さとこ 高椋 聡子
社会教育関係	いそ まさこ 磯 真砂子（委員長）
社会教育関係	すずき てるお 鈴木 輝夫
社会教育関係	もり けんじゅ 森 謙壽
社会教育関係	まなか りゅうし 間中 龍史
社会教育関係	きむら あきら 木村 明
社会教育関係	ともり はじめ 戸森 始（副委員長）
学識経験者	あおやま てっぺい 青山 鉄兵
学識経験者	せきぐち あきひこ 関口 昭彦